

Crescendo

vol.127

M E D I K I T A R T S C E N T E R くれっしえんど

 **メディキット県民文化センター**
MEDIKIT ARTS CENTER

 **宮崎県立芸術劇場**
MIYAZAKI PREFECTURAL ARTS CENTER

人気沸騰中ヴァイオリニスト 三浦文彰SPECIAL INTERVIEW

海外オーケストラで深まる芸術の秋
浦先生の熱視線! 2017

パリ管弦楽団 ブラス・クインテット

アートな学び舎『一日だけの“学び舎”体験①』
たいけん密着レポート



©Yuji Hori



パリ管弦楽団 ブラス・クインテット



チャイコフスキー・シンフォニー・オーケストラ



©Hikaru Hoshi

ウィーン室内管弦楽団



日野原先生と宮崎国際音楽祭

この夏、日野原重明先生が亡くなられました。105才でした。先生の業績や人となりについては私が書くまでもなくよく知られていますが、訃報を聞いて私は宮崎の音楽祭にも関わってくるあることを思い出しました。

今から21年前の1996年、私はNHKの報道番組のプロデューサーでした。ある日、大先輩の青木賢児さんから一つの番組企画が持ち込まれました。「神奈川県平塚市にあるホスピスでチェロ奏者の徳永兼一郎さんが亡くなられたが、その2か月前の最後の演奏を記録した。ホスピスの日野原理事長がその映像と録音を基に番組が作れないか相談してこられた。」青木さんは当時NHK交響楽団におられて、兼一郎さんは団員のお一人でした。

国内最高峰のチェロ演奏家として知られていた方ですし、最後の演奏は彼のファンだったNHKの技術職員が出向いて録音した音だといいます。終末医療現場の話も加味されて、音楽と医療と死生観を合わせた番組が出来るかも知れない・・・制作チームが動き出し仲間の演奏家の方やホスピスのお医者さんの協力を得て、番組は順調に作ることが出来たと記憶しています。「最期のコンサート～あるチェロ奏者の死」は、ひと味違うドキュメンタリーとして多くの方から評価されました。

1996年をご記憶でしょうか、音楽祭の第1回目が開催された年です。徳永兼一郎さんは2年前に発病したガンとの闘病の最中に、何とかこの音楽祭に行き演奏したいと言い続けておられました。この年は3月に音楽祭が開催されていますが、そのプログラムの演奏家欄には兼一郎さんの名前も掲載されています。弟で音楽監督の徳永二男さんもその実現を願っておられたのですが、かないませんでした。兼一郎さんのホスピスでの最期の演奏は、まさにその音楽祭の直後に行われています。カザルスの鳥の歌・・・兼一郎さんは2か月後の5月に息を引き取られました。

ご存知のように徳永二男さんは、毎年音楽祭の少し前に一人で宮崎に足を運ばれ、病院でのコンサートを行ってこられました。入院され様々な病氣と格闘されている患者さんたちに、ヴァイオリンの演奏をひとときお聴きいただくものです。私が「来たくて来れなかった兼一郎さんへのお気持ちですか?」と尋ねると、照れ屋の徳永さんは「まあ・・・そんなもんですね。兄のあの番組があったから・・・」との答え。いつ見舞いに行っても、いつもと変わらない穏やかな笑顔を浮かべていた・・・と付け加えられました。途切れることなく続く病院コンサートの起源はNHKのあの番組だったとも言えます。

宮崎で実現しなかった兼一郎さんの演奏が、今も弟の二男さんの中で生きて、宮崎の病気で苦しむ方達を元気づけている・・・その歴史のきっかけとなった番組の企画提案者は日野原重明先生だった・・・おそらく日野原先生はそういう風に生まれて続く「生と死と文化事業」の伝道者だったかもしれないと・・・合掌。

公益財団法人宮崎県立芸術劇場理事長 佐藤寿美

Special interview 人気沸騰中ヴァイオリニスト!



三浦文彰に聞く!

チャイコフスキー・シンフォニー・オーケストラ
2017年11月11日(土) 15時開演
アイザックスターンホール

〈プロフィール〉 三浦文彰 (みうら・ふみあき)
2009年世界最難関とも言われるハノーファー国際コンクールにおいて、史上最年少の16歳で優勝。国内主要オーケストラはもとより、ハンブルク北ドイツ放送交響楽団、ミルウォーキー響などと共演し、国際的な活動を展開している。12年には、ブラハ・フィル、13年にはシュトゥットガルト放送響との日本ツアーを行った。14年は、ルーブルでのリサイタルでパリ・デビュー。今年17年には、ロンドンでリサイタル・デビューを果たした。
15年リントゥ指揮ベルリン・ドイツ響と共演してエイベックスよりCDリリース。最新CDは、16年にリリースした「名曲コレクション」。16年NHK大河ドラマ「真田丸」テーマ音楽のヴァイオリン・ソロを演奏。09年度第20回出光音楽賞受賞。使用しているヴァイオリンは、宗次コレクションより貸与されたストラディヴァリウス 1704年製作 "Viotti"。

©Yuji Hori

宮崎国際音楽祭でもおなじみの三浦文彰さんが、この秋、名オーケストラとの共演で宮崎に帰ってきます!世界最難関といわれる「ハノーファー国際コンクール」優勝から約8年。昨年のNHK大河ドラマ「真田丸」テーマ曲の演奏も記憶に新しい三浦さんですが、いまや、日本を代表するヴァイオリニストです。世界各地で活躍されている三浦さんに、今回の宮崎公演への想いや現在の心境、さらにはオフの過ごし方までお聞きしました。

🎙️ **どのような少年時代を過ごされましたか。**

ヴァイオリン以外では、チームに入り野球をやっていました。外で遊んだり、スポーツをするのが大好きでした。中学ではテニスもやっていました。とにかく落ち着きがありませんでした(笑)。

🎙️ **「ハノーファー国際コンクール」を史上最年少の16歳で優勝された時は、どのような心境でしたか。**

この優勝と同時に色々な場所でコンサートをさせていただくようになりましたが、ウイーンでの留学生活が始まったばかりだったので、焦らずにじっくりやりたいと思っていました。

🎙️ **ヴァイオリンを習っている子どもたちに、アドバイスをお願いします。**

ヴァイオリンは、正しく弾けば、たくさんの可能性が広がる素晴らしい楽器です。前提として、不自然な姿勢で弾かなくてはいけない楽器なので、長時間練習するよりも短時間の練習で、身体に負担をかけずに頭を使ってゆっくり練習することが大切だと思います。

🎙️ **宮崎国際音楽祭にも出演いただいています、三浦さんにとって宮崎はどんな場所ですか。**

宮崎は、今では僕にとって“第二のホーム”です。14歳の時に参加した「ミュージック・アカデミー」から、毎年欠かさず宮崎国際音楽祭にお邪魔させていただいています。素晴らしいホール、美味しい食べ物、温かいみなさんにどんどん惹かれています。

🎙️ **最近では、「真田丸」のテーマ曲のソロヴァイオリンを担当され、テレビなどにも出演されていますが、何か変化はありましたか。**

「真田丸」をきっかけに僕を知っていただき、コンサートに来てくださる方が増えたのはとてもありがたいです。素晴らしい音楽ですし、自分にとってとても大きな出来事だったと思います。

🎙️ **お忙しい日々を過ごされていると思いますが、理想的なオフの過ごし方は?**

ゆっくりするのも良いですが、結局どこかに出かけるのが好きです。最近は運動不足なので、ジムに行くようにしています。身体に良さそうな運動を見つけたいです。

🎙️ **ヴァイオリンと会話ができれば、どんな話をしたいですか。**

生まれた時からの、これまでの生き様を聞いてみたいですね(笑)。僕のヴァイオリンは、313歳なので。

🎙️ **人生で一番影響を受けた人は誰ですか。**

一番を決めるのは難しいですが、ピンカス・ズーカーマンには非常に大きな影響を受けました。僕は小さいころからアイザック・スターンや、ミルシュタイン、シェリングなど、昔の巨匠の演奏が好きで、いつも録音を聴いていました。そのような人達と直接仲がよかったズーカーマンは、僕にさまざまな話を聞かせてくれます。演奏も大好きですが、演奏家として音楽的伝統を繋いでいくことの大切さを教えてくれたズーカーマンに、とても感謝しています。

🎙️ **今回の演奏会は、「チャイコフスキー・シンフォニー・オーケストラ」、そして巨匠フェドセーエフとの共演です。**

歴史あるロシアのオーケストラとマエストロ・フェドセーエフとの共演をとっても楽しみにしています。宮崎国際音楽祭にもいらっしゃった僕の恩師の1人であるジュリアン・ラクリンは、このオーケストラとフェドセーエフの指揮で、チャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲をレコーディングしています。その音源を小さいころからよく聴いていましたし、母も、前回の東京公演を聴き、そのロシアンサウンドに感動していました。ロシアのオーケストラとの共演は初めてなので、とてもワクワクしています。

🎙️ **今回演奏するチャイコフスキーの魅力は?**

ロシア人とロシア音楽の話をしたりすると、なんとも悲しい背景がある音楽だ、暗い音楽だなどと言う人が多いのですが、チャイコフスキーの音楽の華やかさは素晴らしいものです。ロシアそのものだと思います。

🎙️ **宮崎の皆さんにメッセージをお願いします。**

毎回、宮崎に戻ってくるのが楽しみで仕方ありません。今年は音楽祭に加えて、このコンサートで宮崎の皆さんに聴いていただけるのがとても嬉しいです。ぜひ、会場にお越しください!

▶▶▶公演情報はP4を参照

2017年、クラシックシーズン企画 海外オーケストラで 深まる芸術の秋

昨年好評だったコーナー、浦雄一先生(宮崎大学教育学部講師)の熱視線を今年もお届けします!今回は、秋に開催する2つのオーケストラ公演に注目!指揮者・作曲家としても活動されている浦先生に、さまざまな角度から演奏を楽しむための“ポイント”を教えてくださいました。

室内
オーケストラ

ウィーン室内管弦楽団

Point! 1 世界的オーケストラですが、
敷居は決して高くないです

今年の6月にトルコで開催された野外音楽祭で、演奏真っ最中の舞台上に1匹の犬が迷い込んで拍手喝采を浴びた・・・というニュースがあったことをご存じでしょうか?コンサートマスターの横で音楽に聴き入る可愛い犬の姿が話題になりましたが、このとき演奏していたオーケストラこそ、今回来宮するウィーン室内管弦楽団だったのです(笑)。映像では楽団員たちの楽しそうな雰囲気も印象的でした。しかしその実体は、群雄割拠のウィーン音楽界においても評価の高い名門オーケストラ。テレビ等で活躍中の人気ピアニスト清塚信也さんに加えて、宮崎の音楽ファンにはおなじみの徳永二男先生という豪華ソリスト陣、さらに10代のモーツァルトによる最高傑作の一つ、交響曲第29番を聴けてこのお値段(公演情報参照)とは、本当に、コスパ良すぎです。



徳永二男(ヴァイオリン)



清塚信也(ピアノ)



教えてくれた人

戸高美穂さん(フルート奏者) 留学で6年間ウィーンに滞在

思い出の一品 **“Sturm”**(シュトゥルム)

ワインになる前の発酵中の甘いぶどう酒で、濁りがありシュワシュワと発泡しているのが特徴です。初秋になると、この“シュトゥルム”を求めて、ワイン農家が経営する居酒屋「ホイリゲ」に出掛けて、酒蔵ごとの味を楽しんでいました。豚肉を薄く伸ばして衣につけて揚げるウィーン料理「ヴィナー・シュニッツェル」にも、よく合います。

「ちょっと寄り道〜楽団の本拠地〜 ウィーンのあれこれ」

良いところ…旧市街の町並みが美しい、カフェや緑が多い、毎日オペラが聴ける。
苦手なところ…猛暑の期間は短い、当時はバスや一般家庭にはエアコンがなく暑かった。水に足をつけながらフルートを練習したことも。

Point! 2 “ピアニスト出身マエストロ”が指揮する
ピアノ協奏曲は面白い!

シュテファン・ヴラダーは、ウィーン国立音楽大学ピアノ科教授を務めながらウィーン室内管弦楽団首席指揮者の任にあるという、多才な、そして多忙な人物です。あくまで一般論として、ピアニスト兼指揮者の音楽づくりに関しては様々な意見があるようですが、私個人は、ピアニスト出身マエストロが指揮するピアノ協奏曲にハズレはないと思っています。いくつかある理由の一つは「指揮者がソロパートを知り尽くしている」ということ。だからこそソリストが弾きやすいようにケアしてあげることもできますし、逆に、「ここはこうあるべきなのにどうしてついて来ないんだ!」とバトルのようになることもあります。さて、マエストロ・ヴラダーはどちらのタイプでしょうか。もしかすると、清塚さんが自分の世界にオーケストラと指揮者を引き込むかもしれません。ピアニスト出身マエストロとソリストの駆け引き、是非注目してみてください。



シュテファン・ヴラダー(指揮)

公演情報 ウィーン室内管弦楽団

10月8日(日) 開場14:15 開演15:00

【会場】アイザックスターンホール

【出演】ウィーン室内管弦楽団
シュテファン・ヴラダー(指揮) 徳永二男(ヴァイオリン)
清塚信也(ピアノ) 宮崎ジュニア・オーケストラ(特別出演)
【曲目】ショパン:ピアノ協奏曲第1番 小調 Op.11
モーツァルト:ヴァイオリン協奏曲第5番 イ長調 K.219
交響曲第29番 イ長調 K.201 ほか

【料金】全席指定
S席7,000円[会員6,300円] A席5,000円[会員4,500円]
B席3,000円[会員2,700円] U25割1,500円※B席のみ
親子割5,500円※小・中学生+一般、A席のみ
高校生会員1,000円※B席のみ

浦先生の

熱視線! 2017

浦 雄一(うら・ゆういち)

広島市出身。武蔵野音楽大学作曲学科卒業後に渡米し、セントクラウド州立大学大学院修士課程(器楽指揮)およびアイオワ大学大学院博士課程(管弦楽指揮)修了。音楽芸術博士(DMA)。2012年より宮崎大学に奉職。2016年、アウグスブルク国際指揮者コンクール(ドイツ)入選。現在、宮崎市消防団音楽隊隊長、宮崎メサイア合唱団指揮者を兼任する傍ら、九州各地のコンクールで審査員を務めるなど、地域に根差した活動を行っている。

オーケ
ストラ

チャイコフスキー・ シンフォニー・オーケストラ

Point! 1 チャイコづくしの超濃厚なプログラム!

チャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲&交響曲第6番「悲愴」——。例えるなら、宮崎牛のステーキを注文したら、付け合わせが宮崎牛のハンバーグだった!くらいのボリュームです。作曲家にとって最後の交響曲となった「悲愴」は、チャイコフスキー自身の精神状態が反映されているとも言われる陰鬱な曲想や、低弦のpppp(ピアニッシッシシモ)で幕を閉じる終楽章など、多くの暗い特徴を備えています。そのためか、華やかな第4番や第5番と比べると一般的な人気は低いかもしれませんが、ベートーヴェンは最後の交響曲「第九」で「苦悩から歓喜へ」を歌い上げましたが、チャイコフスキーは「苦悩から絶望へ」達したかのようなラスト・シンフォニーを自らの指揮で初演し、そのわずか9日後に突然、53歳でこの世を去りました。そんな「悲愴」をメインに据えた堂々たるプログラムを実現できるのも、オーケストラが“折り紙付き”の一流だからこそ。震えるサウンドに包まれて、偉大な作曲家の人生に想いを馳せるもよし、ご自身の心の疲れを癒すもよし。今までに経験したことのない、特別な時間をお過ごしいただけることと思います。



教えてくれた人

稲田由香里さん(ピアニスト) 留学で3年間モスクワに滞在

思い出の一品 **“картошка”**(カルトーシュカ)

※じゃがいもの意味
屋台が多く、「картошка」と書いてある看板のお店では、半分に割ったホカホカのじゃがいもにバターが塗ってあり、マヨネーズやケチャップで和えてあるツナや、コーン、お肉などの具材をトッピングして食べます。熱々で美味しいのですが、真冬のマイナス20度の寒空ですぐに冷たくなってしまうので急いで食べていました。

「ちょっと寄り道〜楽団の本拠地〜 モスクワのあれこれ」

良いところ…街の至るところに著名な作家や作曲家、音楽家の住んでいた家があり、そこでコンサートなどが開かれる。
苦手なところ…時間にルーズなところ。ロシア人は、待たされることを大して苦にしていないのかも。

Point! 2 信頼を寄せ合う
パートナーによる充実の演奏

指揮者とオーケストラの関係は、ある意味で、夫婦の間柄に似ています。付き合い始めた頃はぎこちないこともありますが、長く連れ添ってれば阿吽の呼吸で理解し合えるようになるもの(だそう)です。このオーケストラが「モスクワ放送交響楽団」という名称だったソ連時代から40年以上にわたって良好な関係を保っている両者は、支え合いながら幾多の苦難を乗り越えてきた、まさにベスト・パートナーと言えるでしょう。御年85歳を迎えたフェドセーエフですが、緻密な演奏解釈と決然とした指揮ぶりは健在です。ロシアの音楽芸術を世界に広めるというミッションを遂行するため、数えきれないほどのステージをこなしていますが、情性で演奏するなどということは決してありません。最近のインタビューでも「曲の感じ方というのはずっと同じではない。共演者や演奏する国、その時の気持ちなどで微妙に違って来る」と語っており、今、宮崎でしか聴けない、極上のチャイコフスキーに期待が膨らみます。



ウラディーミール・フェドセーエフ(指揮)

Point! 3 三浦さんの“本来の”魅力はここにあり!

最後に、私の熱視線を激しく浴びせたいのが、三浦文彰さんのソロによるヴァイオリン協奏曲です。「真田丸」の印象が強い三浦さんですが、ジャンルを問わず音楽と真摯に向き合い、そして華麗に弾きこなす、彼の世代で最も注目すべき日本人ヴァイオリニストだと断言します。中でも特に高評を得ているチャイコフスキーのコンチェルトで、若き才能の本来の魅力を体感してください。



三浦文彰(ヴァイオリン)

公演情報 チャイコフスキー・シンフォニー・オーケストラ

11月11日(土) 開場14:15 開演15:00

【会場】アイザックスターンホール

【出演】チャイコフスキー・シンフォニー・オーケストラ
ウラディーミール・フェドセーエフ(指揮)
三浦文彰(ヴァイオリン)
【曲目】チャイコフスキー:ヴァイオリン協奏曲 二長調 Op.35
交響曲第6番 口短調「悲愴」Op.74 ほか

【料金】全席指定
S席12,000円[会員10,800円] A席9,000円[会員8,100円]
B席7,000円[会員6,300円] C席5,000円[会員4,500円]
D席3,000円[会員2,700円] U25割2,500円※C席のみ
親子割5,500円※小・中学生+一般、C席のみ
高校生会員1,000円※D席のみ

パリ管弦楽団 ブラス・クインテット

感動と大興奮に包まれた、2011年の『パリ管弦楽団』宮崎公演から早6年。今秋は、あの世界屈指の名オーケストラの首席奏者5名が登場し、フランスのエスプリたっぷりに、華麗な金管五重奏の音色をアイザックスターンホールに響かせます。

出演者5人に聞きました！

Q1.アンサンブルに大切なことは？ **Q2.各楽器に向いている性格は？**

Q3.食欲の秋に行う日本ツアー。楽しみにしている日本食は？



フレデリック・メラルディ （トランペット）

Q1.優れた演奏技術と音楽性を持ち合わせ、グループの一員として貢献するために、個々の見解を共有しようとする意志をもつこと。

Q2.トランペットは、簡単に言うことを聞いてくれない楽器ですが、怖がらないことと思いつきのよさが大切です。

Q3.個人的には、熱狂的な鮎のファンです。コンサートの仕事を終える度に夕食として日本食を食べることが自分へのご褒美です。



ブルーノ・トンバ （トランペット）

Q1.お互いの音を聴くことです。

Q2.緊張しないことが重要です。

Q3.鮎、刺身、焼き鳥、しゃぶしゃぶなどが好きです。



アンドレ・カザレ （ホルン）

Q1.金管アンサンブルで演奏するときは金管楽器として、木管アンサンブルの中で演奏するときは木管楽器であるかのようにバランスを考えて演奏すること。

Q2.よい演奏をするには、何よりも楽観的であることが大切です。

Q3.日本で口にする鮎や刺身は他に比べようがなく、私は目がありません！そして、私を虜にして止まないのは、神戸牛と天ぷらです。



ギヨーム・コテ・デュムーラン （トロンボーン）

Q1.いつでもアイデアを他のメンバーに提案できること、そして必要なときに音を聴くことです。

Q2.寛容な心をもつことです。

Q3.日本料理は、香りの多様性と料理の見せ方が洗練されていると思います。



ステファン・ラベリ （チューバ）

Q1.“耳”で演奏すること。すなわち他のプレーヤーの音を聴くことです。

Q2.チューバは、主として伴奏パートを受け持ちますが、ソロ・パートの役割を持つこともあります。楽器が出し得るさまざまな音色をコントロールして、あらゆる状況下でもバランスよく演奏できる順応力が大切です。

Q3.食材の質の高さには目を見張ります。刺身や鮎が楽しみです。



あのムイチオシ！

宮崎出身のホルン奏者・日高剛さんからメッセージが届きました。

Message

日高剛（ひだか・たけし）



〈プロフィール〉 宮崎市出身。長崎大学経済学部を卒業後、東京藝術大学にてホルンを学ぶ。2005年から2013年までNHK交響楽団ホルン奏者を務めた。現在、東京藝術大学准教授。洗足学園音楽大学客員教授、国立音楽大学非常勤講師も務める。

金管楽器の魅力は、びかびかが光った楽器から奏でられる、勇壮かつ優美な音色を両方兼ね備えている所にあると言えるでしょう。その楽器が5本揃うと、華やかでかつ繊細な変幻自在なハーモニーを堪能できます。世界一流の名演奏家はジャンルを問わず、音を奏でて一瞬にして別世界に連れて行ってくれますが、今回はパリ管弦楽団の精鋭がフランスの“薫り”を感じさせてくれること間違いないと確信しています。金管楽器によるシャンソン！とてもオシャレですね。管楽器は普段話している言語(言葉)の影響がとても出やすいのですが、本場パリにて活動している皆さんの唄からは、きっとまた一味違ったニュアンスが感じられるでしょう。アンドレ・カザレさんには一度東京藝大に来ていただいて、マスタークラスをお願いしたことがあります。とても気さくな方で、和やかな雰囲気の中、学生に的確にアドバイスをしていました。彼の人が柄が滲み出るホルン・サウンドは、とても優しく力強い響きで圧倒されます。各楽器の音色を聴きながら、5人のアンサンブルが揃っていく一体感を味わうのも、ブラス・クインテットの醍醐味です。2017年オススめのコンサート、どうぞお聴き逃しなく！！

アートな学び舎『一日だけの“学び舎”体験』

今年度の演劇ワークショップ「アートな学び舎」では、気軽に参加できる1回限りの体験講座『一日だけの“学び舎”体験』を3回(3種類)実施します。今回は、6月に開催した1回目の講座『からだでコミュニケーション』に密着！鹿児島県伊佐市在住のダンサー2人を講師に迎え、体のコンタクト(触れ合い)によるコミュニケーションの世界を体験してもらいました。

たいけん密着！レポート ～『からだでコミュニケーション』編～



コンタクト・インプロビゼーショングループC.I.co
(写真左から：勝部ちこさん、鹿島聖子さん)

▲講師は、日本の“コンタクト・インプロビゼーション”の第一人者、勝部ちこさんと鹿島聖子さん(C.I.co.)。参加者は男女8名。初めて会う人と場に、やや緊張気味の面持ちでスタートしました。

“コンタクト・インプロビゼーション”とは…相手の身体に触れながら、身をゆだね、相手の重さや動きを感じ取りながら、共に即興で動きを紡いでいく、コミュニケーションのダンスのこと。



▲「相手の身体を、枕や布団にして居心地のよい場所をみつけて寝る」場面では、一瞬戸惑いながらも、それぞれ心地よい体勢を探す参加者たち。何分か前に出会ったばかりですが、まるで家族のように安心しきった表情で気持ちよさそうに寝ています。



▲お互いが身体の重みを預け合うと、一人ではできない体勢や動きが生まれます。相手の身体に乗って転がる「ボディサーフィン」では、お互いに心と身体の声聞きながら、相手に身体をゆだねているようでした。



▲ウォーミングアップで十分身体がほぐれたところで、まず、それぞれ自由に“歩く”ことに！歩いていると、「相手の顔をじっと見ながら」

「後ろに、横に進んで」「人と人の間を通り抜けて」「相手の身体にピタッとくっつけながら」など、講師から次々に声かけがあり、動きが変化します。集中しながらも、子どものように楽しむ参加者たち。いつの間にか、皆さんリラックスした表情になっていました。



▲歩きながら、相手に物を渡していきます。渡す物の数を増やしていくと、渡す側も受け取る側も必死です。渡す相手を瞬時に決め、アイコンタクトし、渡すスピードやタイミングを調整します。一瞬のコミュニケーションが重要に！

講師の声

人の身体と接することによって、抵抗がなくなり、大胆な動きも生まれてきて、皆さんの変化が面白かったです。言葉ではなく身体でコミュニケーションをとって、相手の気持ちを読み合っていていたと思います。



▲「私こそ部屋の中心だと思ふ場所に！」の掛け声で、部屋の中心に集まる参加者たち。満員電車のような光景ですが、皆さん楽しそうです。



▲「ボキャブラリーを増やすように、やったことのない動きにチャレンジしてみましょう」と話す鹿島さん。動きを発展させるために、①押す、②転がる、③すべる、④まわる(軸をもって回転する)、⑤離れるの、5つのヒントをくれました。

たいけん感想



近藤真奈美さん

たまたま劇場でチラシを見つけて、初めて目にする「コンタクト・インプロビゼーション」という言葉に興味を持ちました。相手との動きの流れにびたっと合うと気持ちがよく、不思議な感覚になりました。新鮮でとても楽しかったです。

アートな学び舎 講座のご案内！ ※詳細・応募方法は専用チラシまたはホームページをご覧ください。

舞台に立っちゃう！2017

〈約3か月間の連続講座(全24回)〉

【内容】舞台に関するちょっとだけ専門的な知識や、舞台芸術についての入門的な教養を幅広く学びます。立山ひろみ演劇ディレクターによる演技指導や、ゲスト講師による講座を経て、受講者全員が出演する舞台作品の上演をおこないます。【参加料金】一般7,000円、高校生～大学生2,500円

【募集人数】各講座10名程度(応募者多数の場合は、書類選考を行います)

【応募条件】県内在住の高校生以上(原則、全日程参加できる方)。

戯曲を読み解く！2017

(全6回)

【内容】戯曲をとことん読み解く講座。実際の作品を取り上げながら、戯曲を読み解くための知識をじっくり学びます。【参加料金】一般5,000円、高校生～大学生2,500円

【申込締切】9月10日(日)必着

一日だけの“学び舎体験” 〈単独型〉

②『わくわくどきどき親子で体操』【講師】JOU(じょう) 小林会場(小林市保健センター) 9月10日(日) 14:00～15:30 ※9/9宮崎会場もあり。

③『ぶっちゃけ演出論』【講師】立山ひろみ(宮崎県立芸術劇場演劇ディレクター) 2018年3月9日(金) 19:30～21:00



教えてくれた人

清水まさ志先生(宮崎大学 語学教育センター 准教授)
留学のため、フランス北部ベルギー国境沿いの街ヴァランシエンヌに5年間滞在

思い出の一品 ムール貝の白ワイン蒸

家庭料理で、ムール貝をキロ単位で買ってきて、大きな鍋に刻んだセロリやパセリ、玉ねぎなどを入れバターで炒めます。そこに山盛りのムール貝、白ワインと水を注ぎ蓋をして貝が開くまで煮ます。空の貝殻をピンセットのようにして貝肉をつまんで食べるのが通。フレンチフライを付け合わせにして、ビールを飲めばとたんに幸せになれます。

◀ちょっと寄り道～楽団の本拠地～

パリのあれこれ♪

良いところ…とにかくパリの街を散歩するのが楽しい。道行く人の個性溢れるファッションを見るのが好き。

苦手なところ…冬のパリは日が短く曇っていて気が滅入ります。

10月1日(日)
開場13:00 開演13:30

チケット発売中

イベントホール

'17みやぎの舞台芸術シリーズⅢ
バロック音楽の魅力
～踊りと音楽の幸せな結婚～



大塚直哉(チェンバロ)



市瀬陽子(ダンス)

第1部…レクチャーコンサート
第2部…ワークショップ

出演:大塚直哉(チェンバロ)
市瀬陽子(ダンス)
稲田竜斗(ヴァイオリン)
押川洋樹(ヴァイオリン)
日高慶子(ヴァイオリン)

企画提案者:稲森愛
全席自由 一般4,000円

レクチャーコンサート&バロックダンス体験ワークショップを開催!

Attention(ご注意)

- ◎記載情報は変更になる場合があります。
- ◎割引サービスの詳細は、劇場HPをご覧ください。
- ◎当日券が出る場合は、一般チケットのみ500円増になります。※一部公演除く
- ◎託児サービス(有料・事前申込要)がご利用いただけます。※一部公演除く

8月26日(土)
開場18:30 開演19:00

27日(日)
開場13:30 開演14:00

演劇ホール 舞台上舞台

トライアル・シアター2017『都会の生活』

チケット発売中

原作:如月小春
構成・振付・演出:森下真樹
出演:大谷憲史 小倉鉄夫 片山敦郎 片山優花 川越彩子 久保田杏海 黒田吉郎
佐田麻佑花 島田理央 進藤綾乃 平真子 林田真依 松山章子 宮本日温 吉田達哉
※27日は、終演後にアフタートークあり
全席自由 一般1,500円[会員1,300円] U25割1,000円

9月6日(水)

【昼の部】
開場13:00 開演13:30
【夜の部】
開場17:30 開演18:00

演劇ホール

松竹大歌舞伎

チケット発売中

出演:中村芝翫 中村橋之助 中村福之助 中村梅玉 ほか
演目:猩々(長唄囃子連中)、襲名披露口上、
一谷嫩軍記「熊谷陣屋」(昼の部:福之助出演、夜の部:橋之助出演)
全席指定 S席7,000円[会員6,300円] A席5,000円[会員4,500円] U25割2,500円 ※A席のみ
親子割5,500円 ※小・中学生+一般、A席のみ

9月16日(土)

開場10:30 開演11:00

アイザックスターンホール

パイプオルガン プロムナード・コンサートvol.156
『オルブラ』～土曜日の朝はオルガンでランチを…～

チケット発売中

出演:小島弥寧子(オルガニスト) 伊豆諺子(ご案内)
全席自由 一般500円 なかよしチケット700円※4歳以上2名1組 ※4歳から入場できます。

◆オルブラ×レミューズランチセット券【限定30席】中学生以上:1,600円 小学生:1,000円 幼児500円

10月8日(日)

開場14:15 開演15:00

アイザックスターンホール

ウィーン室内管弦楽団

詳細はP3▶▶▶

チケット発売中

出演:シュテファン・グラデー(指揮) 徳永二男(ヴァイオリン) 清塚信也(ピアノ)
ウィーン室内管弦楽団(管弦楽) 宮崎ジュニア・オーケストラ(特別出演)
全席指定 S席7,000円[会員6,300円] A席5,000円[会員4,500円] B席3,000円[会員2,700円]
U25割1,500円※B席のみ 親子割5,500円※小・中学生+一般、A席のみ 高校生会員1,000円※B席のみ

10月15日(日)

開場13:30 開演14:00

演劇ホール

立川談春 独演会2017 (共催公演)

チケット発売中

出演:立川談春
全席指定 一般4,000円[会員3,600円] (主催:MRT宮崎放送/サンライズプロモーション東京)

10月21日(土)

開場14:30 開演15:00

アイザックスターンホール

パリ管弦楽団プラス・クインテット

詳細はP5▶▶▶

チケット発売中

出演:フレデリック・メラルディ、ブルーノ・トンバ(トランペット)
アンドレ・カザレ(ホルン) ギヨーム・コテ・デュムラン(トロンボーン)
ステファン・ラベリ(チューバ)
全席指定 S席5,000円[会員4,500円] A席3,000円[会員2,700円] U25割1,500円※A席のみ
親子割3,500円※小・中学生+一般、A席のみ 高校生会員1,000円※A席のみ

11月1日(水)

2日(木)

開場18:30 開演19:00

イベントホール

木ノ下歌舞伎

9/10(日)一斉発売

『心中天の網島ー2017 リクリエーション版ー』(共催公演)

作:近松門左衛門 監修・補綴:木ノ下裕一 演出・作詞・音楽:糸井幸之介(FUKAIPRODUCE羽衣)
出演:日高啓介 伊東祐耶 伊東沙保 武谷公雄 西田夏奈子 澤田慎司 山内健司
全席自由 一般2,500円 U25割2,000円 高校生以下1,000円 (主催:木ノ下歌舞伎)

11月11日(土)

開場14:15 開演15:00

アイザックスターンホール

チャイコフスキー・シンフォニー・オーケストラ
(旧モスクワ放送交響楽団)

詳細はP4▶▶▶

チケット発売中

出演:ウラディーミル・フェドセーエフ(指揮) 三浦文彰(ヴァイオリン)
チャイコフスキー・シンフォニー・オーケストラ(管弦楽)
全席指定 S席12,000円[会員10,800円] A席9,000円[会員8,100円] B席7,000円[会員6,300円]
C席5,000円[会員4,500円] D席3,000円[会員2,700円] U25割2,500円※C席のみ
親子割5,500円※小・中学生+一般、C席のみ 高校生会員1,000円※D席のみ



Message

日高啓介(ひだか・けいすけ)

これまで宮崎県立劇場で様々な舞台に立たせていただきましたが、今回ついに!!私が所属する劇団、FUKAIPRODUCE羽衣の舞台をみなさまにお観せ出来る機会に恵まれました! FUKAIPRODUCE羽衣は、女優の深井順子が、糸井幸之介の作品を上演するために立ち上げた劇団です。羽衣の最大の特徴は、「妙一ジカル」と称する、歌と踊りです。妙なミュージカルで「妙一ジカル」。何が妙なのかは、観てのお楽しみ!とにかく一度観たら忘れられない独特の世界です。今回の「瞬間光年」はそんなFUKAIPRODUCE羽衣版SF物語。なんでもない日常が、つぎつぎと宇宙に飛び立つ!?新感覚の舞台をどうぞご堪能ください!ドントシンク、フィール!!

公演情報

'17みやぎの舞台芸術シリーズⅡ
FUKAIPRODUCE羽衣
『瞬間光年』

9月14日(木)・15日(金) 開場18:30 開演19:00
【会場】イベントホール

【作・演出・音楽・振付】糸井幸之介
【出演】深井順子 日高啓介(企画提案者) キムユス
岡本陽介 浅川千絵(以上、FUKAIPRODUCE羽衣)
幸田尚子 石川朝日 飯田一期

【料金】全席自由
一般2,500円 U25割1,000円